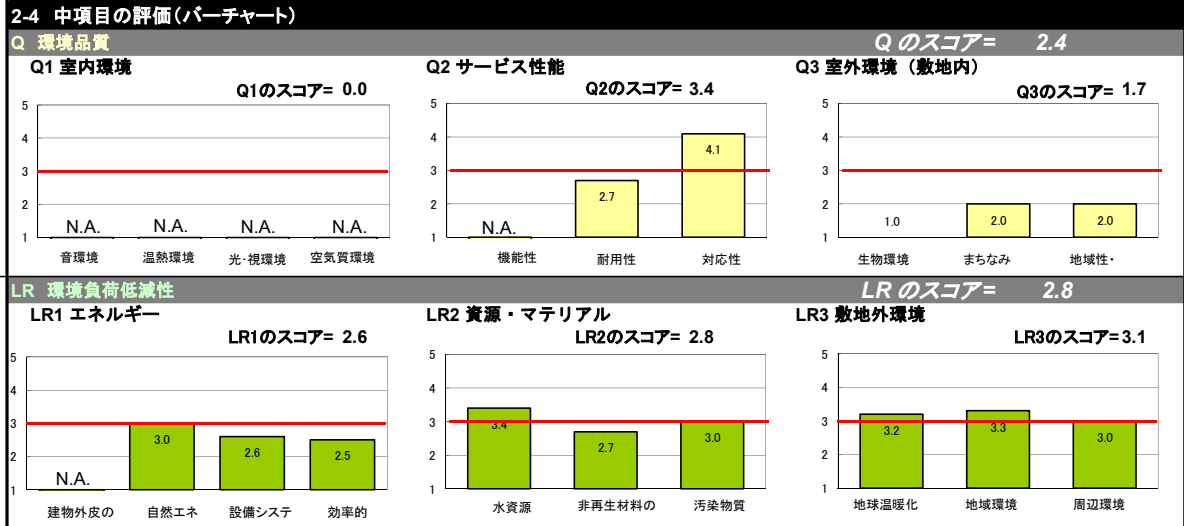
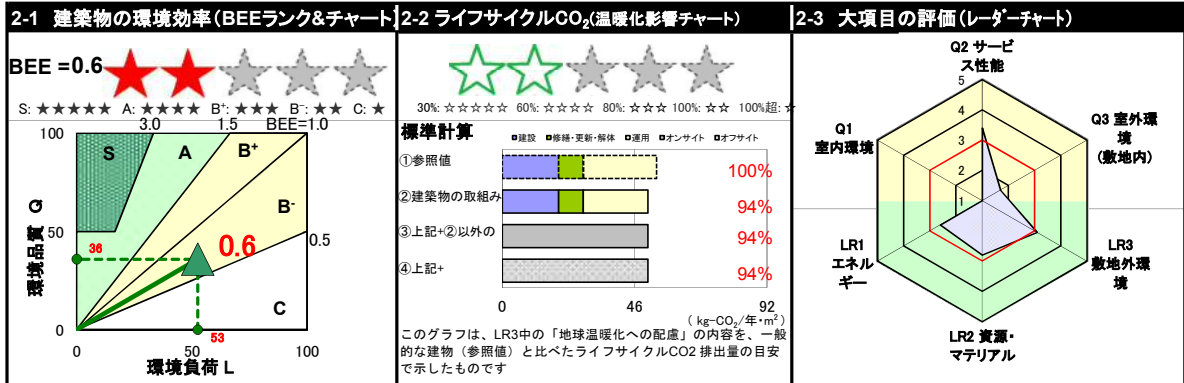
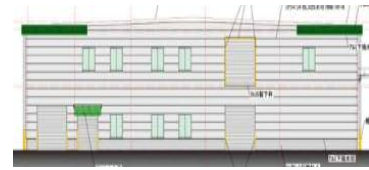


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社名古屋オイルレス小牧本庄工場	階数	地上2階
建設地	愛知県小牧市大字本庄字白池843番外7番	構造	S造
用途地域	工業専用地域、市街化区域、指定なし	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,160時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 竣工	評価の実施日	2019年6月20日
敷地面積	2,505 m ²	作成者	所 伸行
建築面積	1,369 m ²	確認日	2019年6月20日
延床面積	2,423 m ²	確認者	所 伸行



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部		建物全体・共用部		建物全体・共用部		建物全体・共用部		全体
		評価点	評価点	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画	独自									
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②									
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法	②									
5 通信・情報設備										

ビニルクロス貼 20年

3 対応性・更新性				4.1	0.48			-	4.1
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			(1F 4.70m+2F 4.00m)/2=4.35m	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 0.11	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			4500N/m2以上	5.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40			-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									2.8
LR1 エネルギー					0.40				2.6
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化				2.6	0.43				2.6
4 効率的運用				2.5	0.29				2.5
集合住宅以外の評価				2.5	1.00				-
4.1 モニタリング				3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制				2.0	0.50				-
集合住宅の評価					-				-
4.1 モニタリング					-				-
4.2 運用管理体制					-				-
LR2 資源・マテリアル					0.30				2.8
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			騒音装置あり	4.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				-
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63				2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.20				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	PB+LGS	4.0	0.24				-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				-
1 消火剤					-				-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				-
3 冷媒				3.0	0.50				-
LR3 敷地外環境					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率 94%	3.2	0.33				3.2
2 地域環境への配慮				3.3	0.33				3.3
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				-
1 騒音		独自		3.0	0.50				-
2 振動		独自		3.0	0.50				-
3 悪臭					-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				-
1 風害の抑制				3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制					-				-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)株式会社名古屋オイルレス小牧本庄工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア= $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)株式会社名古屋オィ

計画上の配慮事項	
総合	工業専用地域における建築物として、周辺環境に配慮しながら、省エネルギー性能に優れた建築計画を行っている。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	更新必要間隔の長い内装仕上げ材を使用したり、空間的自由度を確保したりして、建物の長寿化を図っている。また、階高にゆとりを設けることにより、利用者にとっての快適さが得られている。
Q3 室外環境(敷地内)	メッシュフェンスを設置して、危険を感じることはないよう防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	建物運用時に消費されるエネルギー消費量を継続的に把握して、より効率的な運用に繋げている。一部LEDライトを使用することにより、設備システムの高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	擬音装置の付いた省水型機器を使用しており、水資源の保護を図っている。また、躯体から仕上げ材の分別を容易化して、解体時の資源再利用に配慮している。
LR3 敷地外環境	建物運用時のCO2排出量を抑え、地球温暖化への配慮を行っている。来客・職員用の駐車場を確保しており、建物の運用時に交通負荷が発生しないよう取組みを行っている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。